

令和5年度 授業改善推進プラン 多摩市立東寺方小学校

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・東京都教育委員会の教育目標
- ・多摩市教育委員会の教育目標

学校の教育目標

日本国憲法・教育基本法を尊重し、予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となるような「生きる力」を支える健やかな体、豊かな心、確かな学力の調和のとれた児童の育成を重視して、次の教育目標を設定する。

◎たくましい子 おもいやる子 かんがえる子

児童の実態

- ・学習に真面目に取り組む。
- ・基礎的基本的な学力の定着度の差が大きい。
- ・考えることを促すと、頑張っ取り組もうとする傾向が見られる。
- ・挨拶をはじめ、自分から積極的に表現することが苦手である。

各教科の指導の重点

- ・週ごとの指導計画に基づいた意図的・計画的・創造的な授業を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を確かなものにする。
- ・1時間のねらいを板書等で明確にし、振り返りを大切にしたいわかる授業の充実を図ることにより日々の授業の改善に努める。
- ・GIGAスクールの構想のもと、ICT機器を積極的に活用し、デジタル教科書の活用、タブレット端末の活用を充実させることで、情報活用能力を育成する。
- ・「ミライシード」の活用を朝学習や家庭学習などの課題に設定することで、基礎的・基本的な学力の定着・伸長を図る。
- ・児童が見通しを立てたり振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。
- ・探究的な活動を行うために図書館を活用するなど、調べ学習の充実を図る。
- ・体力を向上させるために、体育の授業の質を高め、積極的に運動する児童を育成する。

総合的な学習の時間の重点

- ・自校や地域の環境に目を向け、ESDの視点を通して生産活動や森の整備活動、温暖化防止、自然エネルギーの活用等について学習し、課題をもって実践することを通して、自然環境の保持・保全に積極的に働きかける児童を育成する。
- ・教育連携コーディネーターを活用し、地域のことをよく知る方や専門家、保育園児・幼稚園児、保護者など様々な方や地域の施設や文化財等に直接関わる体験活動と問題解決学習を実施し、地域への愛着を深めるとともに、よりよい社会の形成に参画しようとする態度を育成する。
- ・ESDカレンダーをもとに、他教科とのつながりを考慮しながら実践し、総合的な学習の時間と他教科の学習内容を深め合う。

本校における「確かな学力」

認め合い、共に学び、高め合うための言語力

探究する力

自ら課題を設定し、課題解決に向けた学習を計画して、実行する力

活用する力

思考力・判断力・表現力や問題解決能力

基礎的・基本的な力

読む力・書く力・計算する力・語彙力

主体的な学び

深い学び

対話的な学び

基本的な生活習慣・学習習慣(寺小スタンダード・はなまる習慣)

授業改善の視点

教育課程編成上の工夫

- ①知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する。
 - ・各教科における基礎的・基本的な知識・技能を明らかにして、その習得を確実に推し進める。
 - ・思考力・判断力・表現力を育むために、知識・技能の活用を図る学習活動を段階に応じて充実させる。
 - ・他者、社会、自然・環境と関わる中で、粘り強く追究する活動を展開する。
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
 - ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科において単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿った授業改善を行う。

- ③言語活動を充実する。
 - ・言語に関する能力の育成を図る学習活動を重視する。
- ④思考力・判断力・表現力を培う。
 - ・根拠をはっきりさせて筋道を立てて考え、表現する力を培うための学習過程を重視する。
- ⑤家庭との連携を深め、家庭での学習習慣の確立を図る。
 - ・全学年、音読・漢字・計算の宿題を出し、提出することを習慣化させ、徹底させる。

校内研究の充実

- ①児童の主体的な学びを引き出し、思考力・表現力を育てるための授業改善
 - ・OJTと連携した研修を充実させる。
 - ・共通の指導方針を検討、実施する。
 - ・主体性を引き出す手立てを充実させる。
- ②日々の指導を支える、もの・環境を整備し充実させる校内改善
 - ・教材教具、学習用具を充実させる。
 - ・ICT環境を整備し、活用方法を共有する。
- ③課題解決を目指した協働的な組織作り
 - ・学校課題の明確化し職員で共有する。
 - ・意見し合える協議会を実施する。
 - ・日常的に話し合える関係を作る。
 - ・授業を見合うシステム作りをする。
- ④データや事例に基づく研究の見える化
 - ・東京ベーシック・ドリルを活用して、学力を継続的に調査し、グラフ化し見える化する。その対応策を検討し、実施する。